

## JETSTREAM における出血量の検討

松山 嘉克<sup>1</sup>、土井 厚<sup>1</sup>、森下 雄亮<sup>1</sup>、安田 奈央<sup>1</sup>、三宅 諒旺<sup>1</sup>、三浦 菜那<sup>1</sup>、須田 優輝<sup>1</sup>、津田 卓眞<sup>2</sup>、加藤 俊昭<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>名古屋掖済会病院、<sup>2</sup>名古屋掖済会病院

背景・目的浅大腿動脈から膝窩動脈の高度石灰化に対する治療において JETSTREAM は、アテレクトミーと吸引を同時に実行するデバイスとして有用である。一方で、血液を吸引するため出血を伴うが、廃液には生理食塩水と血液が混在し、出血量を評価することが困難となる。本検討では、JETSTREAM 使用時の出血量の推定を行った。対象・方法 2023 年 10 月から 2025 年 7 月までの期間に当院で JETSTREAM を用いて下肢血管拡張術を行った 63 症例を対象とした。治療前の血清ヘモグロビン (Hb) 濃度、切削後に回収された廃液中の Hb 濃度、JETSTREAM の総廃液量、切削時間を計測し、予測出血量と、単位時間当たりの出血量を算出した。結果全 63 症例において、治療前の Hb 濃度は  $11.8 \pm 1.8 \text{ g/dL}$ 、廃液中 Hb 濃度は  $4.4 \pm 1.5 \text{ g/dL}$  となり、廃液中の 38  $\pm 13\%$  が血液であった。また、回収された廃液量は  $140.1 \pm 89.6 \text{ mL}$ 、切削時間は  $231.6 \pm 126.5 \text{ 秒}$  であり、予測出血量は  $53.8 \pm 33.1 \text{ mL}$ 、単位時間当たりの出血量は  $0.23 \pm 0.09 \text{ mL/秒}$  と算出された。結語 JETSTREAM は使用中、 $0.23 \pm 0.09 \text{ mL/秒}$  で出血していた。病変によっては、400 秒を超える切削を行うこともあり、基礎 Hb 値が低い症例においては、出血による全身状態への影響も考慮する必要がある。